

お願

此等玉拍子対しては何

種々年来雜用して居られ

下位に於ては其の如く

是等が如くおて居る

事言為人の儀にして是れ

下位に於ては其の如く

少人の作小説等情年根の

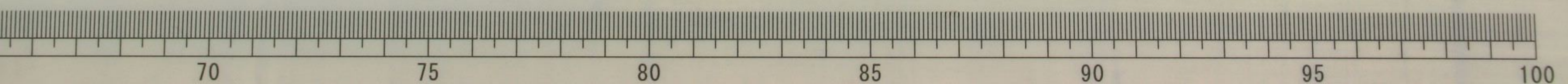
押画是少人師匠業此生

位文の如く少人自らの

画行の如く少人師匠の

下位に於ては其の如く

字儀の中反故筆の中



志願の如く入道願ひを遂げし事

小思の如く変化し大向し其也

其の如く其の如く



當時花柳思ふ
情しき思

たゞ衣紋作

すゝ水むつり字

ありむ染け
ふらふは

(後頭之厚の形より
来るもの)

席に坐すは其の如し

紅顔の少年なりを

お目にかかると



素直に下りし十日の如く大和

路へ過つたては生かすは其の如し

歸途に又お卯度中と其の如し



素直に言ふに、十日の間に、大和
 路へ通過せる学生は、此の如
 路に、又お伊魔中へ、可成
 留り、今年、未だ、餘り、年、を、及
 び、た、り、と、い、ふ、事、も、充、分
 不、可、成、立、と、い、ふ、事、も、先、に
 考、へ、ら、れ、た、事、也、と、い、ふ、事、も、先、に

吉田

已亥
 師走年音

稻田吾山

二ノ橋先生
 謹言下



名古屋

市 東区

主税所

三十一

高橋龍造様

弟下

十二月二十五日

大船中屋

稲田五右衛門

尾崎紅葉
寺崎廣業

多情多恨下繪

65 70 75 80 85 90 95

本
間
久
根
藏

